

その他（４）

全国産業教育フェア新潟大会「プレ大会」について

このことについて、別紙のとおり報告する。

平成30年8月28日  
新潟県教育委員会教育長  
池田幸博

平成 30 年 8 月 28 日

## 第 29 回全国産業教育フェア新潟大会「プレ大会」について（報告）

高等学校教育課

### 1 事業の趣旨

専門高校等で学ぶ生徒が日頃の学習成果を発表し、専門高校等での教育内容への県民の理解・関心を高めるとともに、平成31年度に本県において開催される第29回全国産業教育フェア新潟大会の成功に資する。

### 2 事業の目的

- (1) 教育内容や学習成果を一般県民に広く紹介し、産業教育の活性化を図る。
- (2) 多くの生徒が大会準備や運営に関わることを通して、自己有用感の醸成を図る。
- (3) 高校生の活躍や企業と連携した取組を紹介し、人材育成と産業教育の重要性の理解を図る。
- (4) 科学技術やものづくりに触れる体験を通して、ものづくりの魅力を伝える。
- (5) 第29回全国産業教育フェア新潟大会の実施に向けて課題を明確にし、本大会の成功に向けての改善を図る。

3 日時 平成 30 年 8 月 7 日（火）10:00～15:30

4 会場 新潟市体育館

5 主催 新潟県教育委員会  
共催 新潟県産業教育振興会、新潟市教育委員会

6 参加人数概算（速報） 1,280 人  
幼児・小学生 20 人、中学生 650 人、高校生 250 人、  
保護者 90 人、中学校教員 60 人、高校教員 110 人、その他一般 100 人

7 参加団体 41 団体  
県立高等学校等 33 校（専門高校・総合高校・32 校、高等特別支援学校 1 校）  
私立高等学校 1 校  
外部団体等 7 グループ  
（県民生活・環境部、産業団体 3 団体、専門学校等 3 校）

### 8 成果

- ① 中学生・一般来場者ともに専門高校の取組や産業教育への理解・関心が深まったとアンケートで回答しており、産業教育の内容や学習成果の良い発表の機会となった。
- ② ステージの学科紹介やブースを担当する高校生の姿に対し、感心の声があがり、参加した高校生たちの自己有用感醸成の良い機会となった。
- ③ 来場者の導線計画等、来年度のフェア開催に向けた課題が明確になった。

第29回全国産業教育フェア新潟大会「プレ大会」 来場者アンケート

●中学生

① 専門高校等の学習活動や特色ある取組について、知っていましたか。

		人数	割合
a	よく知っていた	7	4.8%
b	少しは知っていた	86	58.9%
c	全く知らなかった	51	34.9%

② 「プレ大会」に参加して、専門高校の取組や産業教育への理解・関心が深まりましたか。

		人数	割合
a	深まった	76	52.1%
b	どちらかといえば深まった	60	41.1%
c	どちらかといえば深まらなかった	1	0.7%
d	深まらなかった	4	2.7%

③ 今回の「プレ大会」で特に印象に残ったこと、意見などありましたらご自由にお書きください。(代表的な意見を抽出)

- ・高校生の皆さんが優しく接してくれてよかった。
- ・全部の高校がそれぞれ違うパフォーマンスをしていて、とてもおもしろかった。
- ・それぞれのブースで体験などができたり話を聞いたりして自分の進路を考えるのにとっても良い参考になった。他の高校の特色を知ることができ、とてもいい経験ができた。
- ・ステージ発表が印象に残った。
- ・人が多すぎる。並ぶので時間が足りない。列や印を表示すべき。

●一般来場者

④ 今回の「プレ大会」で特に印象に残ったこと、意見などありましたらご自由にお書きください。(代表的な意見を抽出)

- ・高校生が生き生きしており、中学生も関心をもって臨んでいたのが印象的だった。
- ・体験や販売ブースは特に学校の印象が強く残った。もっとすべての学校の体験があった方がよい
- ・高校生が生き生きと活動していてよかった。来年はさらに自信をもってアピールしてほしいと思う。
- ・できあがったものだけでなく、作品や食品の製作など学習や研究の過程についても親しみやすく学べるといいと思う。(中学生にとってですが)
- ・一般の募集だけであつたらどうだったか。そのことを考えて企画宣伝していく必要がある。

<参考> 来年度開催の本大会について

- ・日程 2019年10月26日(土)、27日(日)
- ・会場 朱鷺メッセ 他
- ・主な催事 意見・体験発表、作品研究発表、SPH事業発表、ロボット競技大会、クッキングコンテスト、全国高校生デパート、キッズビジネスタウン等

# 来年10月「産業教育フェア」開催

# 県内高校生 準備に汗

新潟県で2019年10月に「産業教育フェア」の全国大会が開かれる。ものづくりの技術や伝統文化を伝えることが主目的で「主役」は企業ではなく普段から工業や商業などの職業教育を受ける高校生だ。開催を1年後に控え、将来の県内産業を担う若者の全国への情報発信に向けた準備が本格的に始まった。



高校生が中心で中学生も保護者「ものづくりの魅力」を伝えた(7日、新潟市)

@news. ものづくりや伝統文化、全国発信

## 越後 展示・運営、1年かけ改善

「もう少し強くなりたいね」「ゆっくりに大丈夫だよ」。8月7日、新潟市体育館に県内約30高校を中心に専門学校も交え約40の団体からブースが出展された。来場者約1300人の多くは中学生。高校生が普段の学習内容を生かしながら木箱やインテリアの作り方を一から丁寧に教える。開催されたのは19年のフェア本番に向けたプレ大会だ。ステージ発表に加えて体験イベントや作品展示を通じものづくりや産業の魅力を知ってもらう。長岡工業高校(新潟県長岡市)は「マイクロカプセル」づくり、新潟県央工業高校(同県三条市)は木製のティッシュケースの製作をテーマにした。

ものづくり以外にも、看護を学ぶ加茂陸星高校

(同県加茂市)の生徒は脈拍や血圧の測り方の体験ブースを用意。県内高校では馴染みない分野は専門学校や団体がカバーしながら、農業や工業、福祉など8つの専門領域に分かれて発表した。

参加した中学2年生の男子生徒は「高校でこんなに色々な勉強ができるなんて知らなかった」。新潟市内の主婦の女性(42)も「自分が出た普

通科以外のことを初めて知った」と語った。大人が働く本物の姿ではない。ただ、中学生よりも少しだけ年上の先輩が手を動かす、何かを作っている姿は将来の進路決定に向けた刺激になっているようだ。新潟県の担当者は「高校生の学習に加えて、中学生のキャリア教育へとつなげる目的もある」と語る。

19年の本大会は新潟のものづくりを全国にPRする絶好の機会だ。17年に秋田で開いた本大会には10万人が訪れた。本大会に向けた準備の出発点に位置づけられるのが7日のプレ大会で、高校生の活動は本番に向けた気分を盛り上げる重要な役割を担っている。

本番では各種の競技大会や「全国高校生デパート」などのイベントが控える。9月には高校生運営の下で県内高校のロボット競技大会、11月にはフラワーアレンジメントの大会開催などを予定する。今後1年間かけて課題を見つながら改善点を見つけていく。

高校生が主役なのは変わらないが、本大会の出展には県内企業も加わり新潟に伝わる製造技術や工芸品、伝統文化などを一体で全国に発信する。農業、食文化など産業が多岐にわたる中で「新潟県の魅力をどのように効果的に伝えられるかが課題」(県教育庁・高等学校教育課)だ。

県内の中学生に向けた発信は高校生だからこそできる役割を果たしている。新潟県の永遠の課題である県外へのPRにどのように「若者目線」を生かすか。高校はもちろんです。県や開催地の新潟市などと企業らの連携が成否を左右する。